



シナプス

～園長室だより～



令和5年4月

あかるく・やさしく・たくましく！

■入園・進級おめでとうございます！

穏やかな春を迎えました。新型コロナウイルスも5月で一定の収束を迎え、入園・進級と共にまた新たな生活が始まろうとしています。

そんないよいよ始まるアフターコロナ、With コロナを前に、最近、改めて感銘を受けた言葉があります。ご存知の方も多いとは思いますが、それは、「こけたら立ちなはれ、立ったら歩きなはれ」という何ともシンプルな言葉です。本当にシンプルですが、シンプルが故の深みがあります。世界的大企業 Panasonic の創業者、松下幸之助翁の言葉です。

皆さまはこの言葉に何を感じるでしょうか？なんとまああたり前なこと、人間として自然な動きの中に、その真理があるものだと思いに深く関心いたしました。

大人も子どももそうですが、転んだら自然と立ち上がります。そのまま立ち上がれない程の大げがの場合もあるかも知れませんが、基本的には、再び立ち上がろうとすることが自然です。そして、立ち上がれば、歩き出すのもまた、自然そのものです。特別何かを考えて立ち上がり、歩き出している訳ではありません。それが人として、人間として自然な動きなのです。

これを人生に置き換えるとどうでしょう。日々、一生懸命に歩んでいても、石につまづいたり、水たまりにはまったり、壁にぶつかったりすることもあります。それはごく自然なことで、むしろ、何もなかった方が少なく、それはたまたま運がよかっただけであり、転んだり、水たまりはまったり、壁にぶつかっても、失望するのではなく、なぜ、そうなったのかを「考え」「反省」

することが大切だということです。

そして、「考え」「反省」した結果を踏まえ、次に目標を達成できたのであれば、それは「失敗（つまづき）」とは言えなくなるということです。だから、たとえ転んだとしても、転んだ理由を考え、反省し、再び立ち上がることで、それは、次へのステップ（成長）につながるということです。そしてそれを繰り返し、結果として、自分の思ったところに辿り着いた時、転んだことも、その道程のひとつに過ぎなくなり、そのことも、ここにたどり着くために必要不可欠なことだったということになります。

人生にはよく、成功・失敗といった表現が使われますが、そう考えると、人生に失敗などはなく、すべては納得の人生を歩むためのものだということです。まさに「七転び八起き」の気持ちが大切だということですね。

少し精神論的な話になってしまいましたが、子どもたちにも、ぜひそういった気持ちをもってほしいと思います。最近、失敗が怖くて挑戦しないという人も多いようですが、転ばないということは、つまりは歩いていないということになります。転ぶことを恐れてじっとそこにとどまることが正解なのかどうなのか、それもまた、人それぞれの生き方と言えればそれまでですが、せめて幼少期の子どもたちには、色々なことに挑戦できる環境、そして、失敗できる環境、よくも悪くも失敗が許される環境を作ってあげたいと思いますし、その環境こそが、各ご家庭や幼稚園でありたいと考えています。

園長 野口 大仁